

【西区】令和4年第1回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	令和4年2月4日 15時02分 ～ 16時45分
場 所	西区役所3階3B会議室及び外部3か所（Web会議）
出席者	<p>【座長】荻原隆宏議員</p> <p>【議員：2名】清水富雄議員、荻原隆宏議員</p> <p>【西区：18名】寺岡洋志区長、菊地健次副区長、 玉崎悟福祉保健センター長、小黒大治福祉保健センター担当部長、 天野実土木事務所長、西川浩二消防署長、ほか関係職員</p> <p>【局説明員：2名】 健康福祉局健康安全課 大窪和人ワクチン接種調整等担当課長、 デジタル統括本部企画調整課 館田智之担当課長</p>
議 題	<ol style="list-style-type: none"> 1 令和4年度 西区編成予算（案） 2 令和4年度 西区編成予算（案）主要事業 3 西区における開発動向等 4 令和3年度 コロナ禍における事業展開の報告 5 新型コロナウイルス感染症の状況、ワクチンの追加接種等 6 区役所デジタル化におけるモデル区の取組
発言の 要 旨	<p>【令和4年度 西区編成予算（案）】</p> <p>【令和4年度 西区編成予算（案）主要事業】</p> <p><西区「学び・つながり」支援事業></p> <p>荻原議員：新型コロナの影響によって、小学校と地域の連携が希薄化していることについて、何か手当ができたらと自分自身思っていたところだが、具体的にどのような事業を検討しているのか教えてほしい。</p> <p>菊地副区長：本事業は、区内小学校の校長から寄せられた地域と連携した取組を行いたいという提案を元に企画したもので、各地域において、名人達人と呼ばれている方達を講師として迎え、小学校で特別授業をしてもらおうというもの。具体的には、西区の歴史、国際交流、木工制作、まち歩き等を検討している。今後、校長会を通じて調整をしていく。</p> <p><高齢者あんしん生活サポート事業></p>

清水議員：健康づくり・介護予防の強化として、後期高齢者や障害者でも取り組みやすい「ころばんよ体操～Part 2～」を制作し、区民の健康づくりをさらに活性化するというのは、大変良い取組だと思う。その上で、高齢者と子ども達が一緒に踊るような取組があるとさらにいいのではないかと思うが、そういった展開は検討しているか。

高橋高齢・障害支援課長：小学校との連携の中で、保健師が学校を訪問し、介護予防、高齢者、認知症等に関心をもってもらえるような取組を進めており、ころばんよ体操の普及啓発についても話をするところがあるが、現時点では実現まで至っていない。今回制作する「ころばんよ体操～Part 2～」を活用して、取組の幅を拡げていきたい。

<地域連携推進・回遊性向上事業>

清水議員：みなとみらいに神奈川大学ができ、若い学生が増え、先駆的な取組がいろいろと行われている。既に西区と神奈川大学の交流は図られているようだが、さらに積極的に交流を進め、連携を強化していくことを期待している。

鈴木区政推進課長：西区としても神奈川大学との連携については、大変期待をしており、昨年4月に開校して以降、定期会合を含めて話し合いを進めている。神奈川大学では、環境やSDGsに特に力を入れており、西区と合同でイベントを開催するなど連携は深まっている。また、地域課題の解決に向けても連携していければと考えているが、コロナ禍の影響で学生が大学に来れないような状況もあり、十分に進められていない部分がある。令和4年度も引き続き連携強化に努めたい。

<商店街及び「まち」のにぎわい創出事業>

荻原議員：商店街スタンプラリーは、今年度で何回目の開催なのか。これまでの開催実績と比較して、今年度はどの程度の状況なのか。また、商店街食べ歩きについては、どのような状況か。

菊地副区長：令和3年度で4回目の開催となる。令和3年8月1日から31日の期間で実施し、10商店街135店舗が参加した。参加商店街及び店舗数は、年々増加している。

また、商店街食べ歩きは、令和2年度から開催しており、令和2年度21店舗、令和3年度22店舗と1店舗増となっている。

荻原議員：商店街スタンプラリーは、今後も是非継続してもらいたい。より良くしていくために、各商店会にヒアリングをかけて、課題意識を共有するなど、商店会にとって使い勝手のいい仕組みに改善してってもらいたい。

<西区の緑化と地域のつながり形成推進事業>

荻原議員：藤の花の再生について、現在の進捗状況を教えてほしい。

森西土木事務所副所長：昨年度、最も咲いたのは藤棚地区センターで、浜松町公園については、全盛期の半分程度は咲くようになってきた。それ以外の場所についても、全く咲いていなかった状態から、花を多少見つけられる状態になってきている。公園ごとに手法を変えて、最も効果的な手法を模索している。早くとも、後二、三年はかかるのではないかと見込んでいるが、花が盛大に咲くように取り組んでいく。

荻原議員：藤の花を再生できた暁には、花の写真を区民に分かりやすく伝えてもらいたい。

荻原議員：公園の関連で、公園での喫煙について、区民から受動喫煙の防止について、意見が寄せられることがある。健康福祉局、環境創造局、資源循環局と関係局がそれぞれ進めていく話だと思うが、西区に受動喫煙の防止に関する声は寄せられているか。また、西区独自に対策は講じているか。

森西土木事務所副所長：コロナ禍によって建物内の喫煙所が使えなくなったこともあり、1年前くらいから公園での受動喫煙に関する要望が非常に多くなっているが、喫煙を禁止している公園は西区内にはない状態。ただ、こども達が遊ぶ遊具周辺での喫煙を控えてもらうため、遊具に啓発ステッカーを貼付している。また、横浜駅西口のビル街で喫煙者が多く集まる場所に喫煙を控えるよう求める立て看板を設置している。

<地域防災活動推進事業>

荻原議員：地盤品質判定士による崖地に関する無料相談会について、詳細や周知方法等について教えてほしい。

久世総務課長：実施時期は、出水期の7月と出水期の後11月に各月2日ずつ計4日間開催する。会場は、区役所会議室や地区センターを想定している。周知方法は、区連会や広報よこはまのほか、地域情報紙への掲載や過去に崖崩れのあった地域へのポスティング等を考えている。

荻原議員：先日、津波に関する緊急速報メールが届き、地域の方から地域防災拠点に参集するのかどうか、動きが分からないという声が寄せられた。西区の防災計画において、津波警報が出た際の対応がどのように規定されているのか改めて確認したい。

久世総務課長：西区の防災計画のうち、震災対策編に規定されており、3階以上の堅牢な建物、又はJR横浜タワー等の指定の避難施設に避難することとなっている。

荻原議員：区民の自己判断で避難を行うということになると、警報が出た際

にどういう行動を取るべきなのか、ということについての周知が非常に重要だが、現状では周知が不十分だと感じる。周知等はそのように行っているのか。

久世総務課長：横浜市が発行している「防災横浜」という冊子やホームページ、西区の区民生活マップ等で周知を行っている。

荻原議員：ところで、先日の津波に関する緊急速報メールはそもそも誤りだったようだが、改めて詳細を確認したい。

久世総務課長：横浜については、津波警報、注意報のいずれでもなく、津波予報だったため、避難の必要も無く、神奈川県からの緊急速報メールの配信自体が誤りだった。配信元である神奈川県からは、緊急速報メールに関する改修は完了したと聞いている。

荻原議員：先日の緊急速報メールは配信自体が誤りだったとのことだが、次回、配信があった場合に備えて、どのような速報に対してどういうことをやるのか、どういう意味をもってアラートが出るのかを明確にし、対応すべき内容がしっかり地域で共有できるよう取り組んでもらいたい。

久世総務課長：様々な機会を捉えて、明確な周知に努めていきたい。

寺岡区長：平成25年に津波避難のガイドラインができたが、十分周知ができていないというのが実情としてある。津波の場合、短時間で避難をしなければならないため、地域住民がどこかに集まってから避難という方法がなじまないことから、3階以上の堅牢な建物等にすぐに避難を開始することになっている。発災時には、防災スピーカーや緊急速報メールにより避難を促すため、例えばメールの文面で避難方法を伝えるといったことも考えられる。今回、神奈川県の情報発信のミスがあったが、今回を契機として、正しい避難行動を起こしてもらうために必要な情報提供について、しっかりと広報啓発に努めていきたい。

清水議員：先日、全国議長会で東日本大震災や九州豪雨の被災地を視察してきた。その中で、熊本の球磨川の増水で最後まで誘導広報を行っていた消防団員が多く亡くなっているという点が特に印象的だった。これは他の被災地でも同様に発生していることだが、自らの命を落とす可能性がある状態で活動してしまっているということで、発災時に避難誘導や救助活動をどこまでやればいいのか、どこまでできるのか、活動中ではなかなか判断することが難しい課題だと、すごく考えさせられた。発災時に適切な判断をするためには、様々な要素があると思うが、防災訓練を行うことは間違いなく大事な要素の一つなので、地域で行われる防災訓練も含め、今後の防災訓練において、活動範囲等に関する考え方を取り入れてもらいたい。

久世総務課長：非常に重要な視点なので、今後の訓練に活かすとともに、周

知啓発に努めていきたい。

【西区における開発動向等】

荻原議員：野毛山公園のプール跡地について、令和4年度の取組予定を教えてください。設計等の作業に入っていくのか。スケジュール等は策定されているか。また、関係資料があれば提供してほしい。

鈴木区政推進課長：令和3年度に野毛山公園一帯のまち作りに関して、社会実験やヒアリング等を行っており、令和4年度も引き続き行うと聞いている。まだ検討段階ということもあり、設計に入るといったような話は聞いていない。具体的なスケジュールについても、まだ出ていない状況となっている。関係資料については、社会実験等に関わる資料があるので、関係局から提供する。

荻原議員：みなとみらいに様々な音楽ホールが整備されたこともあり、音楽の街にしていく、音楽のブランディングをしていこう、という話を聞いている。これに関して、西区役所として連携していく部分等があるのか教えてください。

菊地副区長：西区と都市整備局の連携について、現時点では具体的な検討は行っていないが、みなとみらいの住民のこと、地域との連携など、西区役所として取り組むべき事項があると認識しているので、連携を図っていきたいと考えている。

【新型コロナウイルス感染症の状況、ワクチンの追加接種等】

荻原議員：令和4年1月に陽性者数が急激に増加しているが、ここで発生した課題、これまでと異なる点など、何かあれば教えてください。

玉崎福祉保健センター長：軽症患者がほとんどだったものの、陽性者数が非常に多かったこともあり、事務処理がかなり逼迫した。ただし、西区役所内で応援職員の配置を柔軟に行ったことで、大きな遅延等を発生させることなく対応することができた。また、これまでと異なる点では、こどもの患者が増え、小学校の休校や保育園の休園により、保護者が働けない状態になるといったことが多く発生している。なお、軽症者は原則自宅療養という対応のため、医療機関の通常診療への影響はそれほど発生していないと聞いている。

荻原議員：3回目のワクチン接種に関する確認だが、64歳以下には3月14日までに対象者全員に接種券を配付とあるが、2回目の接種から6か月経過していない方にも配付するのか。

大窪ワクチン接種調整等担当課長：接種券を配付するのは、6か月以上経過している方のみ。

荻原議員：3月14日で区切っているのは、どういった意味合いがあるのか。

大窪ワクチン接種調整等担当課長：3回目接種は、当初8か月経過した方か

ら順次配付という計画だったが、6か月に短縮されたため、これに対応させるための調整措置を3月14日まで行う。具体的には、当初は8か月経過した方から配付を開始し、3月14日時点で6か月経過した方に配付できる状態に追いつき、その後は、6か月経過した方に順次配付していくこととなる。

【区役所デジタル化におけるモデル区の取組】

荻原議員：デジタル統括本部の令和4年度予算のうち、西区と港南区のモデル区に関する予算は、それぞれの区への分配額は決まっているのか。

館田担当課長：モデル区支援の予算としては、西区と港南区のコンサルティングの予算のほか、Web会議環境の整備費用も含まれている。実際どのように執行するかは、今後検討しながら考えていく。

荻原議員：特に気になっている点は、西区がモデル区となって、この1年で西区はどのような成果を達成すればいいのかという点。私としては、西区がモデル区として令和4年度に取り組む政策の一つとして、市民意見をより反映させていく仕組みづくりに取り組んでもらいたいと考えている。具体的な例をあげると、野毛山公園プールの再整備に関して市民意見を聴く際にデジタル技術を活用した手法を導入し、効果的に意見を収集するといったことが考えられるのではないか。この点について、西区の見解を聞きたい。

寺岡区長：デジタル技術を活用することで、これまで集会に参加できていなかった方の声を得られたり、これまで以上に多くの方の声を集められたり、効率的・効果的に事業展開ができるのであれば、積極的に活用していきたい。また、デジタル区役所モデル区として、広報・広聴の場面以外でも具体的な市民サービスの向上につながる仕組みづくりに取り組んでいきたい。

荻原議員：デジタル・ディバイドは大きな課題だと思っている。これまでに様々なWeb会議に参加してきたが、ただ単に機械を置く、パソコンがあるというだけでは成り立たない、デジタル上のコミュニケーションがあるのではないかと考えてり、デジタル社会のディテールの部分について、きめ細かな配慮が必要だと感じている。今後の展開の仕方として、例えば、普段は聞けないような先生の話の聞くことができる、日常では目にすることができない世界の動画を視聴できるなど、デジタルの良いところを発信・共有しながら取り組んでもらいたい。

【その他：2027年国際園芸博覧会】

清水議員：先日、全国議長会の場で、2027年国際園芸博覧会の話題が上がった。協会の立ち上げが横浜市であり、今後本格的に動き始めてく

	<p>ることになる。この国際的なイベントを通じてSDGsも含め様々な情報発信を横浜からしてくことになると思うので、成功に向けて西区も含め一丸となって取り組んでほしい。</p>
備 考	